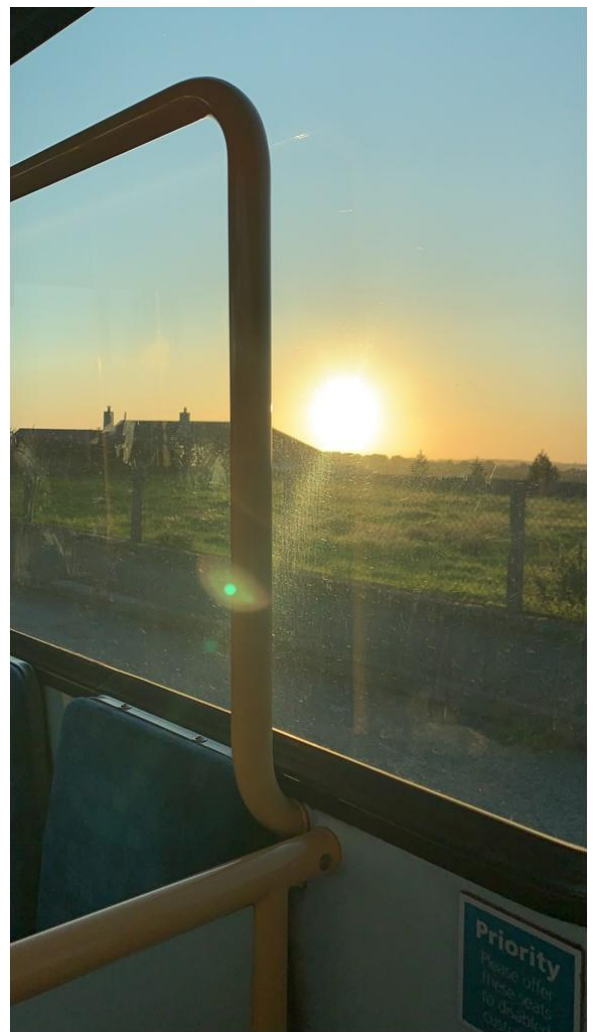


熊本大学海外派遣留学生 報告書

(協定校サマースクール／語学セミナー)

氏名	A さん		
所属	文 学部・大学院 _____ 総合人間 _____ 学科・専攻 _____		
留学先機関名	バンガー大学 (国名： 英国)		
参加プログラム 区分	☐ 協定校サマープログラム ☒ 語学セミナー ☐ その他： _____		
留学期間	2019 年 8 月 29 日－ 2019 年 9 月 19 日	留学開始 時学年	2 年次
奨学金 (奨学金を受給 した場合)	☐ 奨学金受給無し ☐ JASSO 海外留学支援制度 ☒ 国際奨学事業 (熊本大学) ☐ トビタテ！留学 JAPAN 【第 _____ 期】 ☐ その他 (_____)		





1. 出発前の準備について

ビザの申請	☐ 有 ☒ 無 種類()	ビザ申請先	☐ 国内 ☐ 現地 場所()
留学に向けて 取り組んだ語学	☒ 英語 ☐ 独語 ☐ 仏語 ☐ 中国語 ☐ 韓国語 ☐ その他 (語)		
勉強方法	熊本大学の IELTS 講座を受け、IELTS 受験をして実力と今後の課題を確かめた。		
必要経費 (留学に必要な 支払い費用) ※概算費用 (おおよそ その費用)	☐ プログラム費用 516330 円 ☐ 宿泊費用 (寮／ホームステイ等) 円 (プログラム費用に込) ☐ ビザ申請 円 ☐ 渡航費 (□片道 □往復) 円 (プログラム費用に込) ☐ 海外旅行保険料 円 ☐ 食費 約 20000 円 ☐ その他 () 円		

2. 渡航～到着後の生活について

利用航空会社	JAL、British Airways	手配	プログラムで手配 ※利用したサイト、旅行会社等
移動経路 ※往路のみ	熊本空港発羽田空港行 (JAL) 羽田空港発成田空港行リムジンバス 成田空港発ヒースロー空港行 (British Airways) ヒースロー空港発マンチェスター 空港行 (British Airways) マンチェスター空港発バンガーク行 (貸し切りバス)	到着 時刻	【※移動時間 (約 時間)】
大学 (寮) への 移動手段	☐ 大学手配の出迎え ☐ 知人の出迎え ☐ タクシー ☒ 公共交通機関 (☒ バス ☐ 電車) ☐ その他 ()		
空港から移動する 際の注意点 行き方、料金等	プログラムで手配していただいていたバスに参加学生全員で乗り合わせ、ホストファミリーとの集合場所に向かった。		
宿泊先	☐ 寮 ☒ ホームステイ その他 ()	宿泊 手配	☐ 大学の斡旋 ☐ 自分で その他 (IFU の手配)
部屋の種類	☒ 一人部屋 ☐ 二人部屋	ルーム メイト	☒ 日本人学生 ☐ 他国からの学生
その他生活に必要な 手続き、アドバイス (口座開設、保険、 携帯電話、荷物、 支払い方法など)	日本国内での話ですが、クレジットカードは早めに作ったほうがいいでしょう。衣服を買う時間は十分あるので、日本の気候で予想して大量に衣服を持っていくよりも、到着後に現地の気候に合わせて買ったほうがいいかもしれません。		

3. 留学先の大学について

プログラムの概要について（授業・フィールドワーク内容、スケジュール等）	海外進学前の 10 か月滞在をするファウンデーションコース、3 か月滞在するアカデミックコース、そして 3 週間滞在する大学生コースの学生たちが合同で授業を受けました。学習に意欲的で様々な進路を目指す学生たちとの交流により、今後のキャリアについて、大学生活について改めて深く考えさせられるきっかけを得ました。 前述したように街中や家の中での会話はほぼウェールズ語のみで行われ、英語（イングリッシュ）は私たち留学生との共通言語として話されるという環境のため、英語を鍛える主な場はバンガー大学にて行われる様々な授業でした。専門分野プログラムでは各々の選択した授業を受けることができ、私は英語で履歴書を書く授業を受講しました。この授業は偶然 2 人という少人数で行われ、3 週間の滞在の中でも特に印象に残る充実した授業となりました。 週に一回、バンガー近郊へのフィールドトリップが行われました。行先はカナルボン、スレートミュージアム、ヒャンデドノ、コンウィ、チェスター（イングランド）です。毎回前日などに授業でそれぞれの行先について学ぶ時間をしっかり設けていただいたことで、イングランドとウェールズとの関係や、スレートという産業などの知識を得ることができ、英国といえばイングランドというイメージになりがちな中でウェールズを肌で感じ学ぶことのできるプログラムでした。
留学先大学でのサポート体制について（語学面／学校生活／住居・日常生活等）	IFU の方々の手厚いサポートが受けられ、特に困ったことはありませんでした。ただ、割り当てられるホームステイ先によって多少環境の快適度は違うと思われます。IFU の方々は皆さんが親身になって一人ひとり気にかけてくださる方ばかりなので、ホストファミリーとの間でうまくいかないことや困ったことがあった時にはすぐに対応してくださいます。
留学開始後に行った留学先大学の手続き（学生証、履修登録、大学 ID の設定等）	特になし

休日や余暇の過ごし方 (観光、現地学生との交流等) ※どうやって探したか、きっかけなども具体的に	バンガー大学から車で 1 時間ほどのアングルシー島の村がステイ先だったので、自分でバスに乗るようになる前の週末はホストマザーがほかのホストファミリー・日本人学生と一緒にアングルシー島のギャラリーに行ってピクニックをしたり、スーパーにお買い物に行ったりしました。また、ホストマザーの仕事の手伝いをさせてもらったりもしました。 公共交通機関(バス)を使って自分でバンガーまで行けるようになってからは、週末はホストマザーにお願いしてプログラムのオプションツアーのフットボール、アートトリップに参加することもありました。フットボールは現地の学生とバンガーの体育館で楽しみました。アートトリップはハンディドノの芸術祭を中心に、本格的なギャラリーを訪れたりと、個人的にとっても心躍る一日を過ごさせていただきました。
---	---

4. 留学成果とアドバイス

留学によって得られた成果（語学に関すること、ものの考え方や取り組み方、コミュニケーション能力など自由に記載してください）
語学に関しては、習熟度はバラバラでも皆高い意欲をもって参加している学生たちがひとところに集まって勉強をしていたので、やはり積極性は日本にいるより発揮できました。普段自分は英語ができると自負していても、どうしてもアメリカ英語で長年勉強してきたためお互いに戸惑う場面もしばしばあり、とっさに言葉が出てこなかったりする場面もありますが、日本にいるのと違って諦めて日本語で話すという選択肢はないので、ボディランゲージや簡単な言葉を並べて表すなど、英語そのものに限らない全体的な表現力が鍛えられる場でした。 一方で、たった 3 週間で飛躍的に英語がうまくなるなどという都合のいいことは当然ながら起こらず、やはり瞬発力や語彙といった基本的な英語能力は地道な努力からしか実らないということを痛感しました。短期でも英語圏で生活すれば英語が話せるようになるだろうという見込みは（もちろん持っていたわけではありませんが）捨てるべきです。渡英前の春に受けた IELTS、高校の時に受けた英検での「日常生活に支障のないレベル」という評価が的確であること、そこから成長する努力を怠っていたことを実感し、日本でコツコツと研鑽を積むべきであるという今後の学修の指針を得られました。幸いにして熊本大学ではグローバル教育棟でオールイングリッシュの授業が受けられるので、そういった恵まれた環境を卒業までに心行くまで利用するべきでしょう。

**同じプログラムへ参加を希望する人へのアドバイス（留学先大学、プログラムに関する
こと、生活全般に関することなど自由に記載してください）**

2 回目の渡英だったこともあり日本と比べてインフラが不足しているのは覚悟の上でしたが、予想をはるかに上回る不便があることもあったと教訓になりました。具体的には、建物の都合によりトイレをその都度流せない家でした。はっきり言ってかなり苦痛でしたが、私の場合は苦痛を苦痛と自覚できずにそのまま 3 週間その家で過ごしましたが、今考えてみれば、IFU の方に申し出てもよかったかもしれません。

もし、ホストファミリーとの間に問題があると感じた場合は、遠慮なく IFU の方に相談すればステイ先を変えてもらうなどの対処を迅速に行ってもらえることができるはず（他のコースの学生でしたが、実際にそれで変えてもらっていた学生がいました）。

些細なことですが、英国の硬貨は日本の硬貨と比べわかりにくいので、現地に行く前に予習として硬貨の種類を覚えておくといいです。

またバンガー周辺（アングルシー島など）は日常会話はほとんどがウェールズ語で行われ、イングランド地方への留学のように英語がそこら中から聞こえるという環境ではないため、そのような環境を期待して行って、残念な思いをするよりは、事前にそのことも踏まえて他所のプログラムと比較して考えてから選ぶべきでしょう。

留学を通しての感想

前回の渡英では大都市ロンドンを訪れたのですが、今回行かせていただいたバンガーはイングランドではなくウェールズ、つまり連合王国（United Kingdom）としての英国の現状を目の当たりにすることのできる土地であり、また第一にカントリーサイドです。英国と聞くとロンドンの風景を思い浮かべがちだと思いますが、日本がすべて東京のような大都市でないように、英国もロンドンのような大都市から成り立っているわけではなく、バンガー、ヒャンデドノ、チェスターといった小都市（多くの場合大聖堂があります）を中心に広い農地、住宅の立ち並ぶ村など、様々な暮らしの場所から成り立っているという当たり前の事柄を異国の風景である程度の普遍としてとらえることができたのは成果であると言えるでしょう。また大学があるため各国からの留学生はいるものの、やはりロンドンと比べると外国人の数は少なく、事前に治安がいいというバンガーのメリットを紹介されていたこともあり、多様性と共生について深く考えるきっかけを得ました。

熊本大学海外派遣留学生 報告書

(協定校サマースクール／語学セミナー)

氏名	B さん		
所属	_____ 法 _____ 学部・大学院 _____ 法 _____ 学科・専攻		
留学先機関名	バンガー大学 (国名： 英国)		
参加プログラム 区分	☐ 協定校サマープログラム ☒ 語学セミナー ☐ その他：		
留学期間	2019 年 8 月 29 日－ 2019 年 9 月 19 日	留学開始 時学年	2__ 年次
奨学金 (奨学金を受給 した場合)	☐ 奨学金受給無し ☒ JASSO 海外留学支援制度 ☐ 国際奨学事業 (熊本大学) ☐ トビタテ！留学 JAPAN 【第 期】 ☐ その他 ()		



1. 出発前の準備について

ビザの申請	☐ 有 ☒ 無 種類()	ビザ申請先	☐ 国内 ☐ 現地 場所()
留学に向けて 取り組んだ語学	☒ 英語 ☐ 独語 ☐ 仏語 ☐ 中国語 ☐ 韓国語 ☐ その他 () 語)		
勉強方法	TED などを見て、耳を慣らした。また、様々な言い回しを確認した。		
必要経費 (留学に必要な 支払い費用) ※概算費用 (おおよ その費用)	☐ プログラム費用 46,3000 円 ☐ 宿泊費用 (寮／ホームステイ等) プログラム費用に含まれて います 円 ☐ ビザ申請 0 円 ☐ 渡航費 (□片道 □往復) プログラム費用に含まれていま す 円 ☐ 海外旅行保険料 9,880 円 ☐ 食費 12,000 円 ☐ その他 () 円		

2. 渡航～到着後の生活について

利用航空会社	JAL、British Airways	手配	※利用したサイト、旅行会社等
移動経路 ※往路のみ	熊本、羽田、成田、ヒースロ ー、マンチェスター	到着 時刻	23:00 【※移動時間 (約 17 時間)】
大学 (寮) への 移動手段	☒ 大学手配の出迎え ☐ 知人の出迎え ☐ タクシー ☐ 公共交通機関 (□バス □電車) ☐ その他 ()		
空港から移動する 際の注意点 行き方、料金等	大学手配の出迎えだったので特にありません。		
宿泊先	☐ 寮 ☒ ホームステイ その他 ()	宿泊 手配	☒ 大学の斡旋 ☐ 自分で その他 ()
部屋の種類	☒ 一人部屋 ☐ 二人部屋 その他 ()	ルーム メイト	☒ 日本人学生 ☐ 他国からの学生 その他 ()
その他生活に必要な 手続き、アドバイス (口座開設、保険、 携帯電話、荷物、 支払い方法など)	3週間の滞在だったので Wi-fi を借りず、機内モードにして街やホームステイ先の Wi-fi で十分でした。		

3. 留学先の大学について

プログラムの概要について（授業・フィールドワーク内容、スケジュール等）	授業では、バンガーの歴史についてや、世界遺産の城、その土地に所縁のある人物やその歴史を学びました。また、歴史や文化だけでなくディスカッションやプレゼンテーションといったアカデミックな授業も受けました。また、フィールドトリップでは歴史のある建物へ実際に行って自分の目で見て感じることができました。スケジュールは朝から夕方まで日本の大学とあまり変わらない時制でした。
留学先大学でのサポート体制について（語学面／学校生活／住居・日常生活等）	日本人スタッフも数人いたため重要な連絡や相談があるときは無理して英語で伝える必要がありませんでした。また、ホームステイ先の様子や授業の様子などを気にかけてくれたため、とても勉強に集中できました。
留学開始後に行った留学先大学の手続き（学生証、履修登録、大学 ID の設定等）	特にありませんでした。
休日や余暇の過ごし方（観光、現地学生との交流等） ※どうやって探したか、きっかけなども具体的に	週末には参加任意のプログラムがあり、私はヒストリーツアーとフットボールに参加しました。また毎週日曜日にはホストファミリーとチャペルへ行ったりナショナルトラストの庭園に行ったりしました。自分からどこへ行きたいというのがなかったため、ホストファミリーが色々なところへ連れて行ってくれました。

4. 留学成果とアドバイス

留学によって得られた成果（語学に関すること、ものの考え方や取り組み方、コミュニケーション能力など自由に記載してください）

ある問題についてディスカッションした時に自分の考えを持つことは容易にできますが、それを他の人に上手く伝えるということはなかなか難しく、さらにそれを英語で伝えなければならなかったもので、どういう表現をすればよりわかりやすく、簡単に伝えられるかを考えられるようになりました。また、会話をする時に今まで受け手であることが多かったですが積極的に質問を投げかけたり話題を振ることができるようになりました。失敗したりうまくいかないことがあるのは当然のことなので何事にも恐れずに挑戦することができるようになりました。

同じプログラムへ参加を希望する人へのアドバイス（留学先大学、プログラムに関すること、生活全般に関することなど自由に記載してください）

バンガーは思っていた以上に魅力的な場所でとても感銘を受けました。また、このプログラムでは手厚いサポートを受けられるので最初は不安かもしれませんが恐れることは何もありません。英語を学び異文化に触れるにはとても良い環境でした。ロンドンには行く機会があったとしてもウェールズ地方に行くことはそうないと思います。他のところから来た人とも仲良くなりました。たくさんのことを日本へ持ち帰ることができるいいプログラムだと思うのでぜひ参加してみてください。

留学を通しての感想

参加しようと思ったときは特にこれといった目標や目的は特にありませんでしたが、留学してみると高い目標を持った友達や授業を受けることで自分なりに目標を立てることができました。また、思っていた以上に多くの経験をさせてもらい、自分が知らないことを知れました。上手く言語が伝わらない場面もありましたが、私が伝えようとしていることを汲み取ってくれようとしたり、親切にしてくれたりと人の暖かさに触れることもできました。この経験がこれから先で少しでも役に立てばいいなと思いました。今回のプログラムに参加して良かったです。

熊本大学海外派遣留学生 報告書

(協定校サマースクール／語学セミナー)

氏名	C さん		
所属	____ 工 ____ 学部・ ____ 土木建築 ____ 学科		
留学先機関名	バンガー大学 (国名： 英国)		
参加プログラム 区分	☐ 協定校サマープログラム ☒ 語学セミナー ☐ その他：		
留学期間	2019 年 8 月 29 日ー 2019 年 9 月 19 日	留学開始 時学年	____ 1 ____ 年次
奨学金 (奨学金を受給 した場合)	☐ 奨学金受給無し ☐ JASSO 海外留学支援制度 ☒ 国際奨学事業 (熊本大学) ☐ トビタテ！留学 JAPAN 【第 ____ 期】 ☐ その他 ()		



1. 出発前の準備について

ビザの申請	☐ 有 ☒ 無 種類()	ビザ申請先	☐ 国内 ☐ 現地 場所()
留学に向けて 取り組んだ語学	☒ 英語 ☐ 独語 ☐ 仏語 ☐ 中国語 ☐ 韓国語 ☐ その他 (語)		
勉強方法	英字新聞を読んで読解力を上げました		
必要経費 (留学に必要な 支払い費用) ※概算費用(おおよ その費用)	☒ プログラム費用 463,000 円 ☐ 宿泊費用(寮/ホームステイ等) 円 ☐ ビザ申請 円 ☐ 渡航費(☐ 片道 ☐ 往復) 円 ☒ 海外旅行保険料 23,100 円 ☒ 食費 10,000 円 ☒ その他(お土産等) 80,000 円		

2. 渡航～到着後の生活について

利用航空会社	British Airways	手配	IFU 及び熊本大学 ※利用したサイト、旅行会社等
移動経路 ※往路のみ	熊本→羽田→成田→ヒース ロー→マンチェスター→バン ガー	到着 時刻	0:30 【※移動時間(約 27 時間)】
大学(寮)への 移動手段	☒ 大学手配の出迎え ☐ 知人の出迎え ☐ タクシー ☐ 公共交通機関(☐ バス ☐ 電車) ☐ その他()		
空港から移動する 際の注意点 行き方、料金等	特になし		
宿泊先	☐ 寮 ☒ ホームステイ その他()	宿泊 手配	☒ 大学の斡旋 ☐ 自分で その他()
部屋の種類	☒ 一人部屋 ☐ 二人部屋 その他()	ルーム メイト	☒ 日本人学生 ☐ 他国からの学生 その他()
その他生活に必要な 手続き、アドバイス (口座開設、保険、 携帯電話、荷物、 支払い方法など)	ほとんどのお店で VISA などのクレジットカードが使えます。		

3. 留学先の大学について

プログラムの概要について（授業・フィールドワーク内容、スケジュール等）	幅広い分野の授業がありました。 Reading、社会学、ウェールズ文化、英語での自己紹介やブログの書き方などの授業は講義形式で行われました。 Discussion では現地の学生も数人交えた授業でした。フィールドトリップは3日あり、世界遺産などの有名な観光地を訪れました。フィールドトリップの前日には、訪れる場所の見どころや歴史についての授業がありました。また、選択授業も2日あり、興味のある授業を選択できました。ドラマの授業は Closing Ceremony で披露する劇の練習をしました。 飽きることのない、どれも楽しい授業、スケジュールでした。
留学先大学でのサポート体制について（語学面／学校生活／住居・日常生活等）	日本人のスタッフが毎日ついてくださり、勉強面、生活面などあらゆる面で親切に対応・アドバイスしてく下さり、とても助かりました。 先生方の英語もとても聞き取りやすかったです。
留学開始後に行った留学先大学の手続き（学生証、履修登録、大学 ID の設定等）	特になし
休日や余暇の過ごし方（観光、現地学生との交流等） ※どうやって探したか、きっかけなども具体的に	ホストファミリーと過ごす日が多かったです。海や山などにピクニックに行ったり、バーベキューをしたりしました。 熊本大学の先輩と3人で旅行に行った日もありました。バンガーからバスで行けるおすすめの観光地をスタッフが紹介してく下さったので、その情報の中から選びました。またスタッフの方にバスの乗り換えやチケットの予約の仕方などを教えてもらいました。

4. 留学成果とアドバイス

留学によって得られた成果（語学に関すること、ものの考え方や取り組み方、コミュニケーション能力など自由に記載してください）

今回の留学を通して、英語に対する考え方が変わりました。それまでは、工学部だから将来英語が必要な場面は少ないだろうと思うこともあり、英語の学習には重きを置いてきませんでした。しかし英語でたくさんの現地の方と会話することで、英語を使う楽しさを初めて味わいました。私は英語が得意ではありません。時に、スマホで単語を調べながら会話をすることもありましたが、自分の伝えたいことが相手にはっきりと伝わり、会話が弾んだときの楽しさは忘れられません。高校生の時は受験のために英語を学んでいたと言っても過言ではありませんが、これからは自分のために英語を学んでいこうと思います。海外を訪れ、その国の景色はもちろん、文化や人々の考え方を学ぶことは、自分の視野を広げ、自分の考え方を豊かにしてくれると感じました。この経験はとても貴重なものとなりました。

同じプログラムへ参加を希望する人へのアドバイス（留学先大学、プログラムに関すること、生活全般に関することなど自由に記載してください）

このプログラムはハイレベルな英語を学びたい人にも、自分のように英語が苦手でも留学を体験してみようという人のどちらにもおすすめのプログラムです。ウェールズ、特にバンガーはとても治安がよく、街の人もお店の人もとても親切です。また、ホストファミリーは日本人の受け入れに慣れている方がほとんどで、日本の文化に興味を持っておられる方も多くいます。ホストファミリーとの会話は本当に楽しいです！授業では、先生方が分かりやすく、面白く教えてくださるため、日頃の大学生活では味わえない学びの楽しさを体感できます。フィールドトリップなどのプログラムも充実しており、とても濃い3週間を過ごすことができます！！

またこのプログラムでは、3週間の短期留学の学生だけでなく、海外の大学に進学するためにバンガーで10ヶ月間英語を学ぶ日本の学生とも同じ時間を過ごすため、仲良くなるのはもちろん、彼ら彼女らから刺激をもらって英語学習を頑張れました。

留学を通しての感想

このプログラムへ参加したのは、異文化を体験してみたい、その中でもホームステイを体験してみたいという思いからでした。初めての海外渡航ということもあり、英語や食事のことなど不安もありましたが、留学に挑戦してみて本当に良かったと思います。英語に対する意識が劇的に変化し、もっと英語を勉強しようと思うようになりました。英語が必要な将来なんて想像できないなどと思っていましたが、1歩踏み出すと広い世界があることを、身を以て体験しました。また日頃の生活の中で、ウェールズ・イギリスの素晴らしいと思うところもあれば、逆に日本の誇れるところもあつたりと、いろいろなことに気づかされました。自分の視野が広がったと思います。ウェールズの広大な自然や美しい建造物に感動したり、ホストファミリーと濃い時間を過ごした、そんな充実した3週間があつという間に終わってしまったことに少し寂しさを覚えますが、この経験を決して無駄にすることなく熊大での大学生活も引き続き頑張ろうと思います。

